報道資料

彦根市
Hikone City

令和８年(2026年)10月15日

開館40周年記念展覧会
シリーズ THE DAIMYO

企画展「彦根藩御用絵師 佐竹永海(さたけえいかい)
―谷文晁(たにぶんちょう) 最後の高弟―」を開催します

このたび、彦根城博物館において、みだしの企画を行いますのでお知らせします。つきましては、広報方についてよろしくご高配のほどお願い申し上げます。

記

１　名　称

開館40周年記念展覧会　シリーズ THE DAIMYO
企画展「彦根藩御用絵師 佐竹永海 ―谷文晁 最後の高弟―」

２　会　期

令和8年(2026年) 10月23日(金)～12月7日(月)【休館日をのぞく44日間】
(11月17日(火)、18日(水)は休館)
開館時間：11月30日(月)まで　午前９時～午後５時　(入館は午後４時30分まで)
12月1日(火)から　午前９時～午後４時30分（入館は午後４時まで)

３　会　場

彦根城博物館　展示室1・2・6

４　展示の趣旨

佐竹永海(さたけえいかい)(1803～74)は、江戸時代末から明治時代初めにかけて活躍した絵師です。奥州会津の出身で、幼少の頃から地元の狩野派(かのうは)の絵師に画を学び、18歳ないし20歳頃、江戸に出て関東画壇を席巻していた谷文晁(たにぶんちょう)の画塾「写山楼(しゃざんろう)」に入り、20代後半にはある程度名が知られるようになりました。師の文晁は、あらゆる画風の作品を吸収、折衷して自家薬籠中の物とし、その貪欲な姿勢は「八宗兼学(はっしゅうけんがく)」と称されました。永海もまた、師同様に多彩な画風の作品をのこしています。

天保9年(1838)、永海は36歳にして彦根藩井伊(いい)家に召し抱えられ、御用絵師(ごようえし)として活躍します。それは井伊家12代直亮(なおあき)が文晁の弟子を所望してのことでした。以後永海は、13代

直弼、14代直憲の3代にわたり御用をつとめ続けました。安政2年(1855)頃には法橋に、同5年(1858)以前には法眼に叙せられています。

永海の御用絵師としての仕事は、御殿の障壁画の制作や祝いの席での席画などが挙げられます。彦根の下屋敷である槻御殿（現・玄宮楽々園）の襖絵は現存しており、江戸上屋敷あるいは彦根の表御殿の襖絵を描いた可能性が指摘できます。また、嘉永3年(1850)の13代直弼の家督相続、万延元年(1860)の14代直憲の家督相続の内祝いの席において、永海が席画を命ぜられ、画は出席した藩士たちに下賜されました。

そして永海は、特に12代直亮の私的とも言える御用をしばしばつとめていました。例えば、直亮が「予が家宝」とした雅楽器の箱制作にあたって文様の下絵を描き、直亮が借り受けた掛軸を写し、絵の斡旋や鑑定を行うなどしています。永海は、幅広い趣味に生きた直亮の趣味を充実させる役割も担っていたといえます。

永海は彦根を訪れたこともありますが、基本的に江戸に住し、彦根藩の御用をつとめていました。その一方で、江戸の風物や神仏の画なども描き、市井の絵師としての顔を併せ持っていました。複数の版本の挿絵も手がけています。

本展は、佐竹永海の多様な画業と多彩な画風に注目し、永海の全容を浮き彫りにしようとするものです。多くの方々のご協力のもと、初公開の作品も数多く公開します。

当館は、令和９年(2027)２月11日に開館40周年を迎え、これを記念し、約１年にわたり、全９回にわたる展覧会「シリーズ　THE DAIMYO」を開催しています。本展はその第６回となる展覧会です。

５　展示作品

別添リストの113件

※会期中、大幅な展示替をおこないます。

６　観覧料

一　　般　700円

小・中学生　350円

＊30名以上の団体割引等あり

＊＊常設展「“ほんもの”との出会い」も併せてご覧いただけます。

７　関連事業

(1) 記念講演会「彦根藩御用絵師・佐竹永海の生涯と画業」

日　時：令和8年(2026年)11月7日(土) 午後2時～　＊90分程度

会　場：彦根城博物館　講堂

定　員：50名（当日先着順）

講　師：髙木文恵（当館学芸員）

資料代：100円（彦根市内の中学生以下は無料）

＊展示室への入室には、別途観覧料が必要

(2) ギャラリートーク（展示解説）

日　時：令和8年(2026年)10月24日(土)　午後2時～　＊40分程度

会　場：彦根城博物館　展示室1・2・6

講　師：髙木文恵（当館学芸員）

その他：観覧料が必要

8　印刷物

(1) ポスター・ちらし

別添のとおり　※ポスターはちらしの表面と同一のデザイン

(2) 図録

①判型・頁数

A４判（縦297㍉×横210㍉）・136ページ（表紙を含めて140ページ）・カラー刷

②発行日

令和8年10月23日(金)

③内容

図版　本論　落款集　印譜集　年表等

※展示作品113件に、永海理解に重要と判断される42件を加えた、計155件の作品画像を掲載しています。

※展覧会の会期中、見本として広報係に１冊置いておきます。

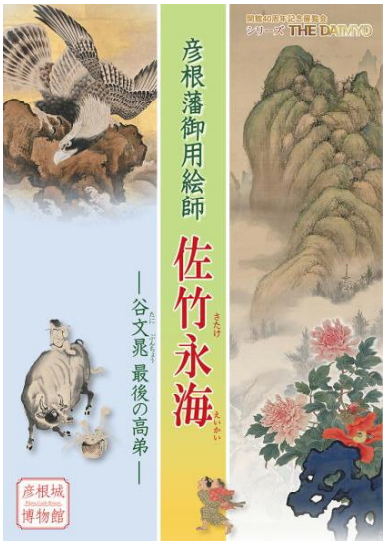
④印刷部数

1,000部

⑤頒布価格

2,000円（予定）

＊彦根城博物館のミュージアムショップで頒布します。



（図録表紙イメージ）

問い合わせ先
彦根市教育委員会事務局
　彦根城博物館 学芸史料課
担当：髙　木　文　恵
電話：0749-22-6100
FAX　：0749-22-6520
E-mail：museum@mx.hikone.ed.jp

企画展「彦根藩御用絵師 佐竹永海一谷文晁 最後の高弟一」展示作品リスト

番号	指定	資料名称	作者	数量	品質形状	制作年	所蔵者	展示期間
【会津から江戸へ～文晁を慕って～】								
1		王勃子安図	佐竹永海	1幅	紙本著色	文政12年 1829年	個人	10/23㊎～11/16㊊
2		三支図	佐竹永海	1幅	絹本著色	江戸時代後期	個人	10/23㊎～11/16㊊
【彦根藩の御用～藩主とともに～】								
3	市	井伊直亮画像	佐竹永海画 仏洲仙英賛	1幅	絹本著色	嘉永4年以前 1851年以前	清涼寺	10/23㊎～12/7㊊
4	市	井伊直亮画像下絵	佐竹永海	1枚	紙本墨画淡彩	嘉永3年以前 1850年以前	彦根城博物館 （彦根藩大久保家文書）	10/23㊎～12/7㊊
5	市	井伊直元画像	佐竹永海	1幅	絹本著色	江戸時代後期	清涼寺	10/23㊎～12/7㊊
6		鷲図	佐竹永海	1幅	紙本著色	江戸時代後期	彦根城博物館 （井伊家伝来資料）	10/23㊎～12/7㊊
7		竹図	佐竹永海	2面	紙本銀地墨画	江戸時代後期	彦根市	10/23㊎～12/7㊊
8		粉本画帖	佐竹永海	1帖	紙本淡彩ほか	江戸時代後期	個人	10/23㊎～12/7㊊
9		群馬野遊図	佐竹永海	1幅	絹本著色	江戸時代後期	彦根城博物館 （井伊家伝来資料）	10/23㊎～12/7㊊
10		摺針暁景図	佐竹永海	1幅	絹本著色	嘉永元年11月 1848年	彦根城博物館 （井伊家伝来資料）	10/23㊎～12/7㊊
11		翁・三番叟図	佐竹永海	2幅	絹本著色	江戸時代後期	大通寺	10/23㊎～12/7㊊
12		林和靖図	佐竹永海	1幅	紙本著色	嘉永3年か 1850年か	彦根藩大久保家	10/23㊎～11/6㊎
13		梅笹に亀図	佐竹永海	1幅	絹本著色	万延元年か 1860年か	彦根藩大久保家	11/7㊏～11/ 24㊋
14		松下鶴図	佐竹永海	1幅	絹本墨画淡彩	天保13年5月 1842年	個人	11/25㊌～12/7㊊
15		浦賀守備図 （大砲御覧図）	佐竹永海	3幅	紙本著色	直亮巡見時の 弘化4年か 1847年か	滋賀大学附属図書館 教育学部分館	10/23㊎～12/7㊊
16		舞楽面図	佐竹永海	4枚のうち	紙本著色	江戸時代後期	彦根城博物館 （井伊家伝来資料）	10/23㊎～12/7㊊
17		富岳春景図	佐竹永海	4面	紙本著色	嘉永3年9月 1850年	彦根藩大久保家	10/23㊎～12/7㊊
18	国	彦根藩士卒戸籍簿		1冊	紙本墨書	明治4年 1871年	彦根城博物館 （彦根藩井伊家文書）	10/23㊎～12/7㊊
19	国	指紙略記		2冊	紙本墨書	天保13年・14年 1842・1843年	彦根城博物館 （彦根藩井伊家文書）	10/23㊎～12/7㊊
20	市	江戸小納戸用状 （御側役中宛）		1通	紙本墨書	年未詳2月21日 (安政2年頃)	彦根城博物館 （彦根藩大久保家文書）	10/23㊎～11/16㊊
21	国	古田筑前守書状	古田筑前守	1通	紙本墨書	年未詳6月4日 (安政2年頃)	彦根城博物館 （彦根藩井伊家文書）	10/23㊎～12/7㊊
22	市	佐竹永海書状 （宮川柳古宛）	佐竹永海	1通	紙本墨書	嘉永3年8月3日 1850年	彦根藩大久保家文書 （彦根藩大久保家文書）	11/19㊍～11/27㊎
23		楽器類留	井伊直亮	2冊のうち 1冊	紙本墨書	江戸時代後期	彦根城博物館 （彦根藩井伊家文書）	10/23㊎～12/7㊊
24		井伊直弼書状 （上田成伴宛）	井伊直弼	1通	紙本墨書	弘化3年4月17日 1846年	彦根藩大久保家 （上田友庵家文書）	10/23㊎～12/7㊊
25	国	金子請取覚	佐竹永海	1通	紙本墨書	年未詳11月3日	彦根城博物館 （彦根藩井伊家文書）	10/23㊎～11/6㊎
26	国	金子請取覚	佐竹永海	1通	紙本墨書	未詳年12月30日	彦根城博物館 （彦根藩井伊家文書）	11/7㊏～11/ 24㊋
27	国	金子請取覚	佐竹永海	1通	紙本墨書	未詳年4月26日	彦根城博物館 （彦根藩井伊家文書）	11/25㊌～12/7㊊
28	国	金子請取覚 （上宛）	佐竹永海	1通	紙本墨書	亥年4月28日	彦根城博物館 （彦根藩井伊家文書）	10/23㊎～11/16㊊
29	国	金子請取覚	佐竹永海	1通	紙本墨書	午年4月26日	彦根城博物館 （彦根藩井伊家文書）	11/19㊍～11/27㊎
30	国	懸物記	井伊直亮	4冊	紙本墨書	江戸時代後期	彦根城博物館 （彦根藩井伊家文書）	10/23㊎～12/7㊊
31	国	屏風之覚	井伊直亮	1冊	紙本墨書	江戸時代後期	彦根城博物館 （彦根藩井伊家文書）	10/23㊎～12/7㊊

番号	指定	資料名称	作者	数量	品質形状	制作年	所蔵者	展示期間
32		青緑山水図	佐竹永海	1幅	絹本著色	江戸時代後期	彦根城博物館 （個人寄贈）	10/23㊎～11/6㊎
33		山水人物図	佐竹永海	1幅	絹本著色	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	11/7㊏～11/ 24㊋
34		山水図	佐竹永海	1幅	絹本墨画淡彩	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	11/25㊌～12/7㊊
35		赤壁図	佐竹永海	6曲1双	紙本著色	慶応元年 1865年	個人	【右隻】 10/23㊎～11/6㊎ 【左隻】 11/7㊏～11/ 24㊋
36		赤壁図	佐竹永海	2幅	絹本淡彩	万延元年 1860年	個人	11/25㊌～12/7㊊
37		山水人物図（煎茶）	佐竹永海	2幅	絹本著色	万延2年・文久元年 1861年	個人	10/23㊎～11/6㊎
38		林和靖愛梅・ 陶淵明帰去来図	佐竹永海	2幅	絹本著色	江戸時代後期	彦根城博物館	11/7㊏～11/ 24㊋
39		山水人物図	佐竹永海	2幅	絹本墨画淡彩	慶応2年10月 1866年	彦根城博物館	11/25㊌～12/7㊊
40		高士観瀑図	佐竹永海	1幅	絹本墨画淡彩	万延元年 1860年	個人	10/23㊎～11/6㊎
41		高士観瀑図	佐竹永海	1幅	絹本著色	江戸時代後期	個人	11/7㊏～11/ 24㊋
42		高士観瀑図	佐竹永海	2幅	紙本墨画	万延元年 1860年	個人	11/25㊌～12/7㊊
43		高士観瀑図	佐竹永海	1幅	紙本墨画淡彩	文久2年 1862年春	個人	10/23㊎～11/16㊊
44		林和靖愛梅・ 陶淵明愛菊図	佐竹永海	2幅	絹本著色	嘉永7年 1854年	個人	11/25㊌～12/7㊊
45		福禄寿図	佐竹永海	1幅	絹本淡彩	嘉永6年 1853年	個人	10/23㊎～11/24㊋
46		山水図	佐竹永海	1幅	絹本墨画淡彩	文久3年 1863年	個人	10/23㊎～12/7㊊
47		山水図	佐竹永海	1幅	絹本墨画	江戸時代後期	個人	11/19㊍～12/7㊊
48		富岳帆船図	佐竹永海	1幅	絹本淡彩	江戸時代後期	個人	10/23㊎～11/6㊎
49		富士に大井川図	佐竹永海	1幅	紙本著色	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	11/7㊏～11/ 24㊋
50		富士に迦陵頻伽図	佐竹永海	1幅	絹本著色	明治2年 1869年	個人	10/23㊎～11/6㊎
51		富岳春景図	佐竹永海	1幅	絹本著色	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	10/23㊎～12/7㊊
52		富士図	佐竹永海	1幅	絹本著色	江戸時代後期～ 明治時代初期	彦根城博物館	11/7㊏～11/ 24㊋
53		富士図	佐竹永海	1幅	絹本著色	江戸時代後期	彦根藩大久保家	11/25㊌～12/7㊊
54		富岳昇龍図	佐竹永海	1幅	紙本墨画	文久3年 1863年	個人	11/25㊌～12/7㊊
55		富岳昇龍図	佐竹永海	1面	絹本淡彩	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	10/23㊎～12/7㊊
56		富岳昇龍図	佐竹永海	1枚	紙本墨画淡彩	文久2年 1862年春	彦根城博物館 （青木巌氏寄贈）	10/23㊎～12/7㊊
57		松島図	佐竹永海	2曲1隻	絹本淡彩	江戸時代後期～ 明治時代初期	兵主大社	10/23㊎～11/16㊊
58		近江八景図	佐竹永海	1幅	絹本著色	江戸時代後期～明治 時代初期	個人	10/23㊎～11/6㊎
59		東方朔鶴図	佐竹永海	3幅	絹本著色	慶応3年5月 1867年	個人	10/23㊎～11/4㊌
60		呂洞賓図	佐竹永海	1幅	絹本著色	安政2～5年頃 1855～58年頃	長浜城歴史博物館	11/ 5㊍～11/16㊊
61		琴高仙人図	佐竹永海	1幅	絹本著色	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	11/ 5㊍～11/16㊊
62		張果老図	佐竹永海	1幅	絹本著色	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	11/19㊍～11/27㊐
63		鍾馗図	佐竹永海	1幅	絹本淡彩	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	11/19㊍～11/27㊐

番号	指定	資料名称	作者	数量	品質形状	制作年	所蔵者	展示期間
64		黄石公春秋山水図	佐竹永海	3幅	絹本淡彩	明治2年6月 1869年	個人	11/28㊏～12/7㊊
65		黄石公張良図	佐竹永海	1幅	絹本著色	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	10/23㊐～11/4㊌
66		林和靖鶴図	佐竹永海	1幅	絹本著色	明治2年 1869年	個人	11/ 5㊍～11/16㊊
67		林和靖鶴図	佐竹永海	1幅	絹本著色	江戸時代後期～ 明治時代初期	故事	11/28㊏～12/7㊊
68		人物図	佐竹永海	1幅	絹本著色	嘉永4年 1851年	個人	11/19㊍～11/27㊐
69		高士図	佐竹永海	1幅	絹本著色	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	10/23㊐～11/4㊌
70		西園雅集図	佐竹永海	6曲1双	紙本著色	慶応元年11月 1865年	彦根城博物館	10/23㊐～11/16㊊
71		琴棋書画図	佐竹永海	6曲1双	紙本著色	慶応4年9月 1868年	個人	11/19㊍～12/7㊊
72		浦嶋図	佐竹永海	1幅	絹本著色	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	11/7㊏～11/ 24㊋
73		牛使図	佐竹永海	1幅	絹本墨画淡彩	江戸時代後期	個人	11/25㊌～12/7㊊
74		牧童図	佐竹永海	1幅	紙本墨画淡彩	江戸時代後期～ 明治時代初期	彦根城博物館	11/ 5㊍～11/16㊊
75		黄初平図 （叱責成羊図）	佐竹永海	1幅	紙本墨画淡彩	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	11/19㊍～11/27㊐
76		農耕図	佐竹永海	2幅	絹本著色	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	11/28㊏～12/7㊊
【花卉翎毛と猛禽～流派を超えて～】								
77		花鳥図	佐竹永海	1幅 ＊本来2幅	絹本著色	江戸時代後期	兵主大社	10/23㊐～12/7㊊
78		花卉図	佐竹永海	2幅	絹本著色	江戸時代後期	個人	10/23㊐～12/7㊊
79		花鳥図	佐竹永海	2曲1隻	紙本著色	嘉永7年 1854年	兵主大社	11/19㊍～12/7㊊
80		葡萄に栗鼠図　竹に栗鼠図	佐竹永海	2幅	絹本墨画	万延元年 1860年	個人	11/19㊍～12/7㊊
81		秋草に鴨図	佐竹永海	1幅	絹本淡彩	嘉永7年 1854年	個人	10/23㊐～11/6㊐
82		芦に鴨図	佐竹永海	1幅	紙本淡彩	安政2～5年頃 1855～58年頃	個人 （喜楽コレクション）	11/7㊏～11/ 24㊋
83		芦に鴨図	佐竹永海	1幅	紙本淡彩	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	11/25㊌～12/7㊊
84		雪中雉子図	佐竹永海	1幅	絹本墨画淡彩	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	10/23㊐～11/16㊊
85		松に鶴図	佐竹永海	2幅	絹本著色	天保13年 1842年	個人	11/7㊏～11/ 24㊋
86		菜種に鶏図	佐竹永海	1幅	絹本著色	万延元年か 1860年か	個人	11/25㊌～12/7㊊
87		松に猿図	佐竹永海	1幅	蘭地著色	江戸時代後期	個人	10/23㊐～12/7㊊
88		藻魚図	佐竹永海	1幅	紙本淡彩	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	10/23㊐～11/6㊐
89		雲龍図	佐竹永海	1幅	絹本墨画	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	11/25㊌～12/7㊊
【大和絵の粋】								
90		雪中常磐図	佐竹永海	1幅	絹本著色	万延元年 1860年	彦根城博物館	10/23㊐～12/7㊊
91		源氏物語図 紅葉の賀／花の宴	佐竹永海	2曲1隻	紙本著色	江戸時代後期～ 明治時代初期	彦根城博物館	10/23㊐～12/7㊊
92		柿本人麻呂・須磨明石図	佐竹永海	3幅	絹本著色	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	10/23㊐～11/16㊊
93		仁徳天皇・耕作図	佐竹永海	3幅	絹本著色	安政2～5年頃 1855～58年頃	個人	11/19㊍～12/7㊊
94		吉野桜図	佐竹永海	1幅	絹本著色	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	10/23㊐～11/6㊐

番号	指定	資料名称	作者	数量	品質形状	制作年	所蔵者	展示期間
95		撫子に蝶図	佐竹永海	2曲1隻	紙本著色	江戸時代後期～ 明治時代初期	彦根藩大久保家	10/23㊎～12/7㊊
96		四季花鳥図	佐竹永海	6曲1双	紙本淡彩	安政2年秋 1855年	彦根城博物館 （原多喜彌氏寄贈）	10/23㊎～12/7㊊
97		瓜に雉鳩図	佐竹永海	1幅	絹本淡彩	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	10/23㊎～11/16㊊
98		秋野鹿図	佐竹永海	1幅	絹本淡彩	江戸時代後期	彦根城博物館 （個人寄贈）	11/19㊍～12/7㊊
99		枝垂桜に短冊図	佐竹永海	1幅	絹本著色	弘化4年か 1847年か	個人 （喜楽コレクション）	11/7㊏～11/ 24㊋
100		神苑東風図	佐竹永海	1幅	絹本著色	文久4年 1864年	個人	11/25㊌～12/7㊊
【寿ぎと祈り～市井の飾り～】								
101		萬歳図	佐竹永海	1幅	絹本淡彩	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	10/23㊎～12/7㊊
102		端午図	佐竹永海	1幅	紙本淡彩	江戸時代後期 ～明治時代初期	個人 （喜楽コレクション）	10/23㊎～12/7㊊
103		七夕図	佐竹永海筆	1幅	絹本著色	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	10/23㊎～12/7㊊
104		大黒画賛	画）佐竹永海 賛）日耀	1幅	紙本墨画淡彩	天保12年 1841年	個人	10/23㊎～12/7㊊
105		恵比寿図	佐竹永海	1幅	絹本淡彩	明治4年 1861年	個人	10/23㊎～11/16㊊
106		恵比寿図	佐竹永海	1幅	絹本淡彩	明治4年 1861年	兵主大社	11/19㊍～12/7㊊
107		宝珠図	佐竹永海	1幅	絹本墨画	江戸時代後期～ 明治時代初期	個人	10/23㊎～12/7㊊
108		鼠図	佐竹永海	1幅	紙本墨画	嘉永5年 1852年	個人	10/23㊎～12/7㊊
109		猿画賛	佐竹永海	1幅	紙本墨画淡彩	万延元年 1860年	長浜城歴史博物館	10/23㊎～12/7㊊
【学びと交流】								
110		名家筆意書画貼交屏風	佐竹永海	6曲1双	紙本著色・ 墨画	文久元年 1861年	兵主大社	10/23㊎～12/7㊊
111		三体詩カルタ	書：山内香雪 画：佐竹永海	一組	紙本淡彩	安政6年か 1859年か	神戸女子大学・ 神戸女子短期大学 図書館	10/23㊎～12/7㊊
112		刷物 　鑿壁偸光図	佐竹永海	1枚	木版　色刷	永海原本： 天保11年夏 1840年	個人	10/23㊎～12/7㊊
113		『提醒紀談』	編：山崎美成 画：佐竹永海	5冊のうち	刊本　墨刷	嘉永3年10月刊 1850年	彦根城博物館 （井伊家伝来典籍）	10/23㊎～12/7㊊

国…国指定重要文化財　市…彦根市指定文化財

写　真　解　説

＊番号は作品リストの番号と一致します。

3　井伊直亮画像（いいなおあきがぞう）　佐竹永海筆　1幅　＊全期展示

絹本著色
縦92.6cm　横40.9cm
賛：嘉永4年(1851)　画：嘉永4年(1851)以前
彦根市指定文化財
清涼寺蔵

井伊家12代直亮(1794-1850)の肖像画。井伊家歴代の菩提寺である清涼寺に伝わります。理想化の要素はほとんどなく、眼光鋭く、繊細な内面までも表現し得た優品であり、身近に仕えた絵師の面目躍如たるものがあります。賛は、清涼寺住持仏洲仙英(1794～1864)筆。

(部分)

（全図）

6　鷲図（わしず）　佐竹永海筆　1幅　＊全期展示

紙本著色
縦141.8cm　横116.6cm
江戸時代後期
当館蔵(井伊家伝来資料)

逆巻く波間の岩上の鷲（わし）。鷲は伝統的な狩（か）野派（のうは）風の画風で描かれていますが、柔らかみを帯びた岩の表現に、永海の師・谷文晁（たにぶんちょう）(1763～1840)の影響を見て取ることができます。本紙の大きさ、硬い紙質から、本来衝立（ついたて）として制作されたものを掛幅に仕立て直されたものとみられます。御殿を荘厳するにふさわしい力強い作品と言えるでしょう。

12　**林和靖図**　佐竹永海筆　1幅　10/23㊎～11/16㊊展示

紙本著色

縦120.4cm　横61.7cm

嘉永3年(1850)か

彦根藩大久保家蔵

梅と鶴をこよなく愛したという林和靖の画。あくの強い人物表現に、中国・清代の画家、馬元欽の影響が色濃く見えます。永海自身、馬元欽筆「関羽周蔵の図」を愛蔵していたといいます。

本作は、嘉永3年(1850)12月5日、13代直弼の家督相続の内祝いの席が設けられて永海が席画を描き、後日、出席した藩士達が画を拝領しました。本作は、その際に拝領した画の1つ。

32　**青緑山水図**　佐竹永海筆　1幅　10/23㊎～11/6㊎展示

絹本著色

縦107.3cm　横37.4cm

江戸時代後期

当館蔵（個人寄贈）

青や緑を中心に、各種の顔料や金泥などを用いて描いた山水図を青緑山水（図）と言います。中国の盛唐期に完成したと言われ、日本では、江戸時代後期の関東画壇の雄、谷文晁が好んで手がけています。本作品は、文晁の弟子の永海が、師の影響下で描いたもので、近景に断崖に沿って歩みを進める人物、中景に雲烟、その奥に峻険な遠山をあらわしています。柔らかなタッチと色調とで暖かみを感じさせる1幅です。

50　**富士に迦陵頻伽図**　佐竹永海筆　1幅　10/23㊎～11/6㊎展示

絹本著色
縦40.8cm　横73.6cm
明治２年(1869)
個人蔵

永海の師の谷文晁は、良質な古画の摸写と写生の重要性を説いています。
永海の真景画（写生画）としては、箱根の芦ノ湖とともに富士を描いた「筥根真景図」が知られています。
本図は、写実的な富士に浄土の霊鳥・迦陵頻伽を配した、幻想的な画となっています。

78　**花卉図**　佐竹永海筆　2幅　＊全期展示　写真は右幅

絹本著色
各縦104.5cm　横38.1cm
江戸時代後期
個人蔵

太湖石に牡丹、菊、蒲公英の花卉と、蝶や蜻蛉などの昆虫類。鮮やかな色彩と陰影を意識した細かな描写に、18世紀に来日した中国・清の画家、沈南蘋の流れを汲む南蘋派の強い影響が見られます。背景には金泥をはき、蜻蛉の羽には銀を用いるなど、入念に描かれた力作です。

102　**端午図**（たんごず）　佐竹永海筆　1幅　＊全期展示

紙本淡彩

縦126.3cm　横57.0cm

江戸時代後期～明治時代初期

個人蔵（喜楽コレクション）

旭日（きょくじつ）を背景に、はためく鯉幟（こいのぼり）と吹き流し、鍾馗（しょうき）の旗を描いた画。端午の節句用に描かれたものとみられます。鍾馗は、魔除け・厄除けの力を有する神で、男子の健やかな成長を祈願して掛け軸や旗、人形などの形で飾られました。

永海は、３月３日の上巳（じょうし）の節句に飾る雛人形の画も描いており、市井の画家としても活躍していたことが分かります。

目に付きにくい箇所に敢えてサインと印を入れることを「隠し落款（らっかん）」と言いますが、本作は、鍾馗の旗に小さく落款を入れ、粋な味を加えています。